

平成20年7月30日【連絡誘導路工区 起重機船】

連絡誘導路工区では現在、3隻の主要作業船がジャケット据付、ジャケット杭打設、P Ca 受梁架設、受梁間連結、P Ca 床版架設・陸揚げの作業に携わっています。

その作業船の中に、「神翔1600」、「神翔300」という2隻の船がいます。

神翔1600について（旋回・起伏式）

旋回式の起重機船の中では日本トップクラスの吊能力（1,600t）を有しています。

また、本船の甲板上にケーソンなどを積込んで運搬することが可能です。

主要項目

長さ： 95.0m
幅： 45.0m
深さ： 7.0m
喫水（計画満載時）：約3.9m

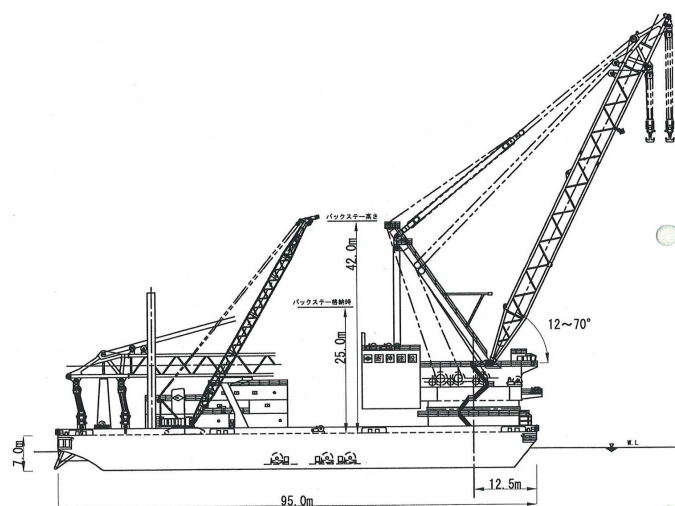


図-1 神翔1600

神翔300について（旋回・起伏式）

旋回式で300t吊り能力を有しており、2基のフック設備を装備し、作業の用途によっては、1基のフック設備に変更が可能です。

また、杭打船としての設備もあり、多目的作業船として稼働しています。

主要項目

長さ： 55.0m
幅： 24.0m
深さ： 5.0m
喫水（最大荷重時）平均：約2.8m

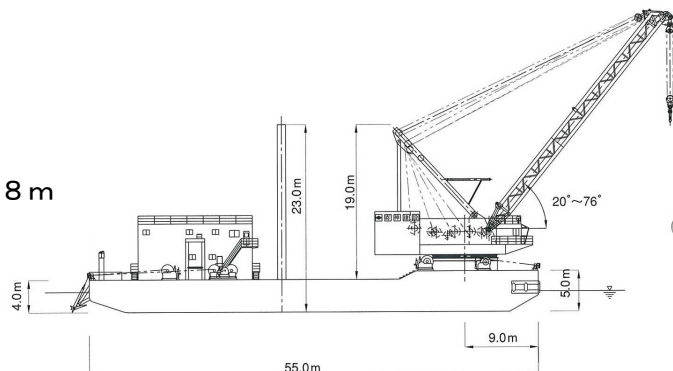


図-2 神翔300

図-3 ジャケット基礎杭を打設している神翔1600



図-4 ジャケット据付の準備に入る神翔1600



図-5・6 P Ca床版を吊りあげる神翔300



2隻が並んで作業を行うと、まさに親子のよう！！

神翔1600は連絡誘導路のジャケット据付、ジャケット基礎杭の打設と主要な海上起重機作業を行っています。

そんなお父さんの背中を見て、神翔300もPCa床版の据付、ジャケット上への陸揚げ作業に励んでいます。



図－7 連絡誘導路栈橋部全体図